

「一年後へ。一步進む。～+1メッセージ～T O K Y O 2 0 2 0」

本当なら明日の今頃、この国立競技場ではT O K Y O 2 0 2 0の開会式が華やかに行われているはずでした。私もこの大会に出るのが夢でした。

オリンピックやパラリンピックはアスリートにとって、特別なものです。その大きな目標が目の前から突然消えてしまったことは、アスリート達にとって、言葉にできないほどの喪失感だったと思います。

私も、白血病という大きな病気をしたから、よく分かります。

思っていた未来が、一夜にして別世界のように変わる。それは、とてもきつい経験でした。

そんな中でも、救いになったのはお医者さん、看護師さんなど、たくさんの医療従事者の方に、支えていただいたことです。

身近で見ているいかに大変なお仕事をされているのか、実感しました。

しかも今は、コロナという新たな敵とも戦っている。

本当に感謝しかありません。ありがとうございます。

2020年という、特別な年を経験したことで、スポーツが、決してアスリートだけで出来るものではない、ということ学びました。

さまざまな人の支えの上に、スポーツは存在する。本当に、そう思います。

今から1年後。オリンピックやパラリンピックができる世界になっていたら、どんなに素敵だろうと思います。

今は、一喜一憂することも多い毎日ですが、一日でも早く、平和な日常が戻ってきてほしいと、心から願っています。

スポーツは、人に勇気や、絆をくれるものだと思います。

私も闘病中、仲間のアスリートの頑張りにたくさんの力をもらいました。今だって、そうです。練習でみんなに追いつけない。悔しい。そういう思いも含めて、前に進む力になっています。

T O K Y O 2 0 2 0

今日、ここから始まる1年を単なる1年の延期ではなく、「プラス1」と考える。

それはとても、未来志向で前向きな考え方だと思いました。

もちろん、世の中がこんな大変な時期に、スポーツの話をする事自体、否定的な声があることもよく分かります。

ただ、一方で思うのは、逆境から這い上がっていく時には、どうしても、希望の力が必要だということです。

希望が、遠くに輝いているからこそ、どんなにつらくても、前を向いて頑張れる。

私の場合、もう一度プールに戻りたい。その一心でつらい治療を乗り越えることができました。

世界中のアスリートと、そのアスリートから勇気をもたらしているすべての人のために。1年後の今日、この場所で希望の炎が輝いていて欲しいと思います。

競泳選手 池江璃花子